HRS接客ベーシック検定のご案内

2023年度最終の「HRS接客ベーシック検定」として、12月4日月曜日、服部栄養専門学校を会場に基礎講座を開講しました。この講座受講者を対象とした検定試験は2024年1月29日月曜日に吉祥寺エクセルホテル東急を会場に実施します。また、本年度は校内受験制度を設け、7月に実施した服部栄養専門学校(東京都·渋谷区)に続き、武蔵野調理師専門学校(東京·新宿区)の在校生を対象に9月に基礎講座と検定試験を実施いたしました。この検定試験は外食産業で働く方々、また、これから志す方々を対象としたHRS認定のライセンスで、企業の新人教育の一環としても評価として広がりを見せています。人材育成ご担当の方は、ぜひこの制度のご活用をご検討ください。受検希望の方は、本誌同封の講座内容と試験のご案内、または協会ホームページ(www.hrs.or.jp)よりお申し込みください。

HRS接客ベーシック検定とは?

生労働大臣指定試験機関として国家検定「レストランサービス技能検定」の試験を運営するHRSが、広く料飲業界に従事する方々、それを志す方々を対象とし、HRS監修の「接客ベーシック検定ハンドブック」を教材に、料飲基礎講座と実技審査を通して外食産業に求められる基本知識と動作、ホスピタリティマインドを習得していただくために実施するHRS認定のライセンス制度です。

ホテル·レストランにとらわれず、ベーシック検定では幅広い飲食施設(カフェ、居酒屋、販売店等)の方々、料飲、ブライダル等の専門学校在学生もトライできるようなプログラムで構成しています。また、人手不足や人財不足の環境にある中、きちんとした教育、育成時間が取れない現状下では、事業主にとってもメリットがある資格制度ですので、ぜひ受検をご検討ください

料飲基礎講座の受講 → **試験受検** → **合格者は資格を取得**

*基本動作と知識の取得　　*学科試験と実技審査を行います　　*認定証書と認定バッチ授与

講座に使用するハンドブックの紹介

第1章　食品·食材等の基礎知識
第2章　接客の基本
第3章　テーブルサービス
第4章　苦情対応とお客さまの受け入れ
第5章　危機管理
第6章　西洋料理の食事用器具
第7章　食文化
第8章　飲料の種類及び特徴
第9章　食品衛生
第10章　食物アレルギーについて

どのような方が受検をしているか?

- 新人研修のプログラムとして
- 希望の職種に就くために資格を取得したい
- 人事·教育担当の方のご参加、社内教育の一環として
- 調理師(目指している)だが接客の基本は身に付けたい
- 料飲サービスの基本を再確認したい
- 飲食店の開業を目指している
- 料飲サービスの基本を身に付けたい
- etc…

「HRS接客ベーシック検定」専門学校の取り組み

学校法人後藤学園 武蔵野調理師専門学校　教務部 調理師科課　**冨田 浩子 氏**（とみた ひろこ）

武蔵野調理師専門学校には、2年制の高度調理経営科･高度調理製菓科と1年制の調理師科の3つの学科があり、高度調理経営科では、これまで選択授業としてレストランサービス技能検定3級の講座を開講し受検をしています。

調理師科は、授業の中では接客サービスの専門知識の修得の為に、サービス論で接客の基本や形式、食文化史などを勉強しおりますが、これまでサービスの資格を取得する機会が無く、今回初めて学内で「HRS接客ベーシック検定」を実施することになりました。

調理師科の授業でのサービス論は座学のみで、この検定の基礎講座では、接客サービスの基本的知識と共に、サービス動作の実演とロール･プレイングで実践的な事が学べるという事もあり、学生自身がスキルアップや、調理の仕事をする上で、サービスに関する知識習得などを目的とした希望者13名が受講、受験し、全員合格することが出来ました。

試験前に行われた料飲基礎講座では、学生からは「実技は初め難しく感じましたが、出来るようになるととてもうれしい」「皿の持ち方など今までやった事がなく、丁寧に教えていただき身につけることが出来て良かった」などの声が上がりました。また、受講中はどの学生も真剣に取り組み、細かな所作まで講師と、学生同士とで確認するなど、積極的に取り組む様子が見られました。

今回の検定試験を通じて学生からは「接客の良し悪しがお店に影響することを改めて知り接客の大切さがわかりました」「自分の可能性を広げられる良い機会になりました」「アルバイトの接客でも活用でき、前よりも自信がつきました」などの声がありました。

今回、本番さながらの実技審査を受けることで学生の取り組みにも緊張感があり、学生個々の学びの場として、また、飲食業界に出る前の経験として大変貴重なものになったのではと感じています。

来年度も多くの学生に貴重な経験してもらえるように、魅力を伝えていきたいと思います。